

平成29年度第2回青森県総合社会教育センター運営協議会議事録概要

日 時 平成30年2月20日（火）13時30分～15時30分
会 場 総合社会教育センター4階 第2教材開発室
出席者 運営協議会委員 7名 総合社会教育センター職員17名
指定管理者 2名

1 開会

2 所長あいさつ

- ・ 第1回運営協議会において説明した事業も含め、今年度計画した事業については、職員一致して事業成果を意識しながらの効果的・効率的な事業実施に取り組んできました。ほぼ予定どおりの進捗状況となっております。現在は来年度事業の企画立案等準備を進めているところであります。委員皆様方からの貴重な御意見をいただきながら、ここまで来ることができたと考えているところであり、改めて感謝申し上げます。
- ・ 本日は、今年度の事業実績と来年度の事業計画について、担当から説明させます。皆様方から忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。
- ・ 来年度から当センターの指定管理者が代わることになりました。現在、われわれ職員も含めて新現の指定管理者間で業務引継を行っているところであります。県民、利用者の皆様に対してサービス低下にならないよう、これまで以上に連携協力して生涯学習、社会教育の推進に努めて参ります。

3 平成29年度事業実績及び平成30年度事業計画について（議事）

事務局より、

(1)「パワフルAOMORI！創造塾」

(2)「未来の青森県を担う若人育成講座」及び「青森で生きる未来人財育成事業」

(3)「高大連携キャリアサポート推進事業」及び「大学生とカタル！キャリアサポート形成事業」

について説明が行われたあと、(1)～(3)についての意見交換等が行われた。

(A委員)

「パワフルAOMORI！創造塾」について、28・29期の塾生の動向は出てきているが、それ以前の塾生はどうか。

(総合社会教育センター担当職員)

合宿型で行ったのが昨年度からであり、27年度までは年間8回、9回

を1日の日程で、それぞれその回で興味のあるものを受けていただいた。最初から最後まで受講した方もいれば、1回だけ、あるいは2回だけ、という方もいた。

(議長)

「未来の青森県を担う若人育成講座」及び「青森で生きる未来人財育成事業」について。試みとして行われたものが、実施自治体の理解を得て引き継がれていくということで、黒石市の方では来年度引き継がれるようであるが、青森市と七戸町では今後どのような見通しとなるのか。

(総合社会教育センター担当職員)

今のような形となったのは昨年度からであり、昨年度は青森市と黒石市で実施し、今年度は黒石市が2年目、七戸町については今年度からなので1年目ということになる。青森市の方は当センターで行い、これからも当センターでモデル事業として実施する予定である。課題としては、高校生の参加がやや少ないということもあるので、公民館で行う寺子屋の他に児童館へも行き、演習の数を増やすことで高校生の参加を増やしていきたいと考えている。

(B委員)

「パワフルAOMORI！創造塾」の中で塩尻市の公務員の方が講義をされたようである。全国のいろいろな地域を見ていると、公務員が活躍して、県内でもそのような人たちが出てきてよい感じとなってきているが、やはり、まだ気付いていないのか、そこまでやる必要がないと思っているのか、それともやってはいけないと思っているのか、いろいろあるように感じられる。

地域の人たちと連携しながら、行政ができることと、住民がすべきこと、お互い連携しながら進めることが、これからの市町村の生き残りにつながっていくと思う。県外でも県内でも、できればいろいろな場面で活動している公務員や民間の方を講師にすれば、気付きになったり、自分もやってみようというようなきっかけづくりになると思われる。

(総合社会教育センター担当職員)

今年度は、塾生に公務員が多い状況であった。第3回の講座では、山形県の高橋由和様を講師に迎え御講義いただいた。人口減少グラフを示され、これは危ないという危機感を共有していただき、公務員でできること、銀行員でできることなどを皆さんで考えていただいた。

(B委員)

「キャリアサポ」について。高校側のバス代の負担は必要であると聞いているが、今でもそうなのか。

※キャリアサポ：「高大連携キャリアサポート推進事業」及び「大学生とカタル!キャリアサポート形成事業」

(総合社会教育センター担当職員)

現在もそのようになっている。各学校の県費からの負担は難しいと思われるので、後援会費などから負担していただいている。統廃合や生徒数の減少といった中、バス代を負担しても自分の学校の生徒たちのキャリア教育を進めたい、大学生たちと語らせて新しい進路を見つけさせたいという学校が参加してくる。来年度については、現在20校が参加したいと希望している。

(B委員)

事業自体は大変よいものであるのもっとたくさん参加してほしいと思う。バス代の負担は学校としても大変であると思われるので、例えば、上限を決めてあとは県が負担するというようなこともあればよいのではないか。予算の制約もあってむずかしいことは理解するが。

(所長)

町の方で是非この事業を続けてほしいということで、町の応援でバス代を出しているような例もある。この事業がスタートしたときには県の方で支出していたところであるが、やはり経費の負担については、実費分ということで今の形になってきていると思われる。実際、生徒の数が減り小規模校になるほど負担が大きくなる。また、三八方面の学校が対象になると、津軽方面の大学生が多く、どうしてもバス代が高くなるということもあり、そのような課題があると考えている。

事務局より、

- (4)「家庭教育支援コンテンツ制作事業」及び「家庭教育支援動画制作普及事業」
- (5)「絆でつながる家庭教育支援セミナー」及び「家庭教育応援隊養成講座」
- (6)「学校と地域の協働実践セミナー」及び「地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修」

について説明が行われたあと、(4)～(6)についての意見交換等が行われた。

(議長)

本日欠席の委員から、意見交換等事前連絡票が送付されている。

「絆でつながる家庭教育支援セミナー」について「公開講座では、大豆生田先生のお話を伺った。県内において、このような先生の講座をもっと開いてもらいたいと思った。講座で学んだことの資料等をもっと教育関係者に周知してもらえれば、不安を抱えている親の助けになるのではと感じる。」という意見である。

(C委員)

「家庭教育支援コンテンツ制作事業」について、悩んでいる保護者はたくさんおり、そのような方々に是非このようなコンテンツを届けてあげたいと、PTAの役員を務めている関係でいつも思っている。保護者個々の都合もあって難しいところもあるが、例えば参観日であれば時間をやり繰りしてでも、ということになり、その後の全体会の時間であれば集まりやすい、といったこともあるので、このような出前講座の開催日時について、なるべくたくさんの方が集まる観点で検討いただきたい。

(D委員)

この家庭教育支援コンテンツの対象は、決して若いお母様方や小さいお子さんをお持ちの保護者の方ばかりではなく、中学生でも高校生でも、あるいは学校現場でも活用できる内容ではないかと思う。幼稚園や保育所に通う小さいお子様を持つ方々は、小・中学校と違ってなかなか普段つながることができないので、そちらの方のコンテンツが多いのではないかと思われる。

これまではないような思い切ったコンテンツも作られている。これは、小学校の高学年からでも、中高校生でも、あるいはその保護者の方々にも是非活用していただければと思う。素晴らしく、そして他の県にはない切り込んだ内容であると思っているので、是非多くの保護者の方々に宣伝して、使っていただきたい。

(E委員)

プラットフォームについては、総合的な学習の時間の中でキャリア教育をラインに据えて生き方教育を進めており、子どもたちにはいろいろなことを体験させたり、議論させたりしている。

また、1年生はいろいろな職業の方々のお話を聞く機会を設けて子どもたちが自由に活動する、2年生は実際に職場に出掛け体験したり見学したりする、3年生は修学旅行でいろいろなことを見て、最後にはキッザニア東京にも行ったりして、学年毎に段階的に進めているところである。

その中で、職場体験等に行くと一つのグループが4人または5人になり、1学年で50以上の事業所が必要となる。学校の周りの事業所では足りなく、プラットフォームを見て進めるよう学校の教員には伝えている。

事業所のほか、学区内では保育園、老人ホーム、近くの小学校にも御協

力いただいて、大変うまく進んでいる。そして、行ったきりではなくて、クラスの中で体験を発表させたり、クラスから選んで学年で発表させたりする機会を設け、全員が共有するようにしている。それが子どもたちの力となって、やがて大人になっていってくれることを願い進めているところである。

事務局より、

(7)「公民館等の防災・減災教育機能強化事業」

(8)「あおもり県民カレッジ運營業務他」について説明が行われた。

(7)及び(8)については特に質問等がなかったので、4の総合的な意見交換を行った。

4 総合的な意見交換

(B委員)

一生懸命やっていたので、今後とも継続してほしい。

(E委員)

「未来の青森県を担う若人育成講座」が終了し、来年度は新規の「青森で生きる未来人財育成事業」になるとのことである。中学生の参加が結構少ないということであるが、来年度からは平日1回休み、土曜日か日曜日のうちどちらかが休み、という中学生の運動部活動の制限が入ってくるので、どれくらいの部活動がやれるのか、どんな形で運営していくのか、それらを見ながら、なるべく中学生がこのような事業に参加できるようになればと思う。

(C委員)

事業においては、子どもたちが成長していく上でのいろいろな体験の場、学びの場、気づきの場があり、また、それらを通して年齢を越えたつながりができていくことをありがたく思う。人財、子どもたちは財（たから）であるので、今後も子どもたちの健やかな成長に御協力いただきたい。

(A委員)

あえて一つ気になるのは集客、人集めである。どうしたら届けたい人に届けることができるのか、いろいろな場面で人集めが課題となってくるので、がんばっていただきたい。

(D委員)

県民に広く周知するためには、まず私たち委員がそれぞれの地域で、そ

れぞれの場で、いろいろな機会を捉えて、このようなことが事業として行われているので是非活用を、とすることだけでも大きな力となると思われた。委員として宣伝することが大きな使命と感じ、まずは率先してやっていきたい。

(F委員)

公民館の防災に関する事業、町会運営に持って行けるように関係部局で練り上げてほしいと思う。また、小・中・高のモデル事業については、モデル事業は県内で次々に回していかないと触れる人が増えないで終わってしまうので、市長会や町村長会にPRして、成功事例も引き合いに出しながら広げるよう働き掛けていただければと思う。

次に、高大連携キャリアサポート推進事業について、大学の単位となったということであるが、本末転倒で教育実習の単位取得が目的ということにならないようお願いしたい。先生になりたい人だけではなくて、いろいろなタイプの大学生が来るようにやっていただくと、事業に対する満足度も上がっていくのではないかと思われた。

(議長)

このような事業については、やりっ放しにしないということは、重要なことであると思う。そういう意味では、PDCAサイクルを確立して、検証もして次に向かうような形がとれていて、どの事業もよいと思われた。

その一方で、関係する自治体、それから関係する個人の中での、ある限られたところでの事業になってしまう可能性もあるのではと若干感じた。しかし、登録された人やコンテンツを見た人たちの数字を見ると、やはりニーズが大きいということも事実であるので、潜在的な、県民の中ではこういう情報がほしい、こういった情報が必要であるといったようなことを掘り起こす取組を継続してほしいと思う。

やっていることの方角性としては、非常によい方向であると思う。

5 閉会

(所長)

長時間に渡る御協議お礼申し上げます。今日いただきました御意見等を参考にして、さらに事業効果を意識し、また、PDCAサイクルも念頭に置きながら、県民の皆様への事業展開を進めて参りたいと考えております。

本日はありがとうございました。